

シラバス

基礎セミナー（2005年度・後期）

基本テーマ： 「大学生と職業の間」

授業担当者：

教員 夏目達也（高等教育研究センター）

連絡先 内線 5693

natsume@cshe.nagoya-u.ac.jp

TA 米津直希（教育発達科学研究科）

連絡先：

単位：2単位

開講時期： 後期・木4限

科目区分： 全学基礎科目、 科目名： 基礎セミナー

1. 授業の概要・目的

現在、高校生や大学生の就職をめぐる状況は依然として厳しい。大学3年ともなれば、それまでのんびり学生生活を過ごしてきた学生も目の色を変えて、就職活動に取り組むことになる。本授業の対象者である大学入学後間もない学生諸君にとって、就職はまだ自分の当面する課題として認識されることはないだろう。しかし、だからと言って、他人事ですまされる問題などではなく、3年後にはいやでも直面する。いや1年生は1年生なりにこの問題に取り組むべきとも言える。

本当に就職は1年生にとって他人事であり得るか、かりに自分自身の問題であるとすれば、この問題に1年生としてどのように取り組めばよいのか、3年次に就職活動を始めるまでにどのような準備をすればよいのか等について考える。

あわせて、自分のキャリア設計を題材に、現代社会における職業の存在意義とはいかなるものか、これからのみずからの大学生活をいかに創り出すか、その後にはやってくる就職問題にいかに備えるか等について考える。

- ・日本における職業の実態や青年の就職問題の現状を理解できる。
- ・自分にとって職業とは何かを考えることができる。
- ・大学入学から卒業・就職までの期間に、大学生活をどのように送ればよいか考える。

2. 授業の内容

1. 日本における青年の就職問題の現状について、いくつかの文献を通じて理解する。
2. 自分の身近な存在（両親・親戚・兄弟等）の職業生活について調べる。
3. 身近な職業従事者に対してインタビューをする。

4. 職業従事者をゲストスピーカーとして招き、キャリア形成について話を聞く。
5. 2～4を通じて、自分たちにとってキャリアの意味について考える。
6. 来年度に名古屋大学に入学してくる学生（後輩）に対するメッセージを考える。

3. 最終目標

- ・自分の選択した職業に関する研究テーマについて、レポートを書く（20,000字程度）。
- ・自分の今後の勉学への動機付け・目標の設定のきっかけとする。
- ・自分の後輩へのメッセージとする。

4. 具体的な学習内容

- ・ある特定の職業についてのインタビュー調査を行うこと、それに基づく報告書（レポート）を作成する。
- ・練習を兼ねて、身近な存在としての親に対するインタビューを行う。

< オプション >

- ・名大や他大学における就職支援の現状と課題について考える。
名大の就職活動支援サークルの目的・活動状況の調査
就職支援担当の教員へのインタビュー
- ・自らのアルバイト等の体験、そこから得られた働くことに対する自分なりの考えを加える。

アルバイト先の雇用主、上司・先輩へのインタビューなどを加える。

- ・青年の就職をめぐる問題について考える。例：フリーター・ニートをめぐる問題
青年の就職支援のNPO等へのインタビュー

5. レポートの内容：

- ・選択した職業の実態をなるべくリアルに、詳細に、正確に調べ、記述する。
- ・なぜその仕事を調査対象として選択したかを明確にする。
調査対象として魅力的か、調査可能性はあるか。調査内容を報告としてまとめられるか。調査対象として一般性・普遍性はあるか。

6. 調査すべき事項

- ・職業の業務内容
- ・職業選択や就職にあたって知っておくべき事項とは何か。
- ・就職に求められる条件、能力・資質とはどのようなものか。
- ・能力・資質をどのように獲得すべきか、従事者はどのように修得したか。
- ・仕事の喜び・やりがい、苦しさ・悩み、直面する課題とはどのようなものか。
- ・これから就職しようとする大学生（その他の青年を含む）に言いたいこと。

在学中にしておくべきこと。

7. 調査の方法

- ・ 3人一組で調査する。
- ・ 複数の方法・対象者を用いること。
 - ・ 職業従事者へのインタビュー
 - ・ 就職活動を経験した先輩学生へのインタビュー
 - ・ 学内外の就職支援サービスの関係者へのインタビュー
 - ・ 親へのインタビュー
 - ・ 職業従事者インタビューに関する著作から学ぶ。
 - ・ 職業に関するノンフィクション・ルポルタージュから学ぶ。
 - ・ 各種の職業紹介の資料を参照する。

8. レポートの作成方法

- ・ 3人で執筆してもよいし、ひとりずつ作成してもよい。
- ・ 共同執筆の場合には、誰がどの部分を分担したかを明記する。

9. 授業における発表

- ・ レポートの最後に、自分なりの考え・感想を記す。
自分自身のことばで記すこと。素朴な感想、ホンネが大切。
- ・ 発表するレポートのサイズは A4にする。
- ・ レポートの1枚目の冒頭2～3行目に、授業の名称（基礎セミナー「大学生と職業の間」とレポート発表予定日、学籍番号、氏名を記入すること。
- ・ すべてのページにページ番号をつける。
- ・ 引用文献・参考文献は必ず提示すること。
- ・ ホッチキスでとめて提出する。
- ・ 発表するレポートは、担当教員・TAに前日（少なくとも当日午前中）までにメールで送り、あわせて、ゴーイングシラバスにアップロードする。
- ・ レポートはワープロで作成。ワープロを使用できない人は事前に教員・TAに通告。

10. 参考書

- ・ 橋木俊詔、2004、『脱フリーター社会』、東洋経済新報社、¥1,575
- ・ ロナルド・ドーア、2005、『働くということ』、中公新書、中央公論新社、¥700
- ・ 玄田有史、2004、『ニートフリーターでもなく失業者でもなく』、幻冬舎、¥1,575
- ・ 玄田有史、2002、『仕事のなかの曖昧な不安』、中央公論新社、¥620
- ・ 小杉礼子編、2005、『フリーターとニート』、勁草書房、¥1,995

- ・宮本みち子、2002、『若者が《社会的弱者》に転落する』、洋泉社、¥756
- ・大久保幸夫、2002、『新卒無業 - なぜ彼らは就職しないのか』、東洋経済新報社、¥1,470
- ・香山リカ、2004、『就職がこわい』、講談社、¥1,365
- ・稲泉連、2001、『僕らが働く理由、働かない理由、働けない理由』、文芸春秋、¥1,500
- ・長山靖生、2003、『若者はなぜ「決められない」か』（ちくま新書）、筑摩書房、¥756
- ・矢幡洋、2005、『働こうとしない人たち』、中公新書、中央公論新社、¥777

11. 評価方法：

授業中の議論への参加	20%
報告に対するコメント(1)～(3)	各 5%
課題1	10%
課題2	10%
課題3	35%
課題4	10%

12. 授業の構成

第1回(10/6)

オリエンテーション

- ・コースの概要の説明
- ・テキストの紹介
 - 橋木俊詔、2004、『脱フリーター社会』、東洋経済新報社
- ・グループの決定(課題1のチームと課題2以降のチーム)

第2回(10/13)

青年の就職をめぐる問題状況(1)

- ・大卒・高卒者の就職問題、最近の就職率の動向
 - 第1Gによる報告 橋木(2004)の第1章、第2章、第3章<課題1>
 - 参考図書：香山リカが描く世界『就職がこわい』
- ・報告に対する質疑応答
- ・報告に対するコメント(1)

第3回(10/20)

青年の就職をめぐる問題状況(2)

- 第2Gによる報告 橋木(2004)の第4章、第5章、第6章<課題1>
- ・報告に対する質疑応答
- ・報告に対するコメント(2)

第4回(10/27)

- ・青年の就職をめぐる問題状況(3)
- ・米津 TA によるプレゼン
青年の就職や社会生活への現状・問題点について
参考文献の紹介
 - ・宮本みち子『若者が「社会的弱者」に転落する』
 - ・長山 靖生『若者はなぜ「決められない」か』
- ・フリーター問題に関するビデオの鑑賞(NHK・BS ディベート)

第5回(11/10)

- ・青年の就職をめぐる問題状況(4)
 - 第3Gによる報告 橘木(2004)の第7、第8章、第9章<課題1>
- ・報告に対する質疑応答
- ・報告に対するコメント(3)

第6回(11/17)

- ・各Gによるプレゼン(1) 第1・第2グループ
- ・親へのインタビューの報告<課題2>
- ・選択した職業、なぜそれを選択したか。
- ・今後の調査計画
- ・報告に関する質疑応答・討論

第7回(11/24)

- ・各Gによるプレゼン(2) 第3・第4グループ
- ・親へのインタビューの報告<課題2>
- ・選択した職業、なぜそれを選択したか。
- ・今後の調査計画
- ・報告に関する質疑応答・討論

第8回(12/01)

- ・各Gによるプレゼン(3) 第1グループ
- ・職業インタビューの報告<課題3>
- ・報告に関する質疑応答・討論
- ・最終報告に向けた課題の明確化

第9回(12/08)

- ・各Gによるプレゼン(4) 第2グループ
- ・職業インタビューの報告<課題3>
- ・報告に関する質疑応答・討論
- ・最終報告に向けた課題の明確化

第10回(12/15)

- ・各Gによるプレゼン(5) 第3グループ
- ・職業インタビューの報告<課題3>
- ・報告に関する質疑応答・討論
- ・最終報告に向けた課題の明確化

第11回(01/12)

- ・各Gによるプレゼン(6) 第4グループ
- ・職業インタビューの報告<課題3>
- ・報告に関する質疑応答・討論
- ・最終報告に向けた課題の明確化

第12回(01/19)

- ・各Gによるプレゼン(7) 第1・第2グループ
- ・第2回の発表者とは別のメンバーによる発表
- ・最終調査報告の発表<課題4>

第13回(01/26)

- ・各Gによるプレゼン(8) 第3・第4グループ
- ・第2回の発表者とは別のメンバーによる発表
- ・最終調査報告の発表<課題4>

第14回(02/02)

- ・全体の反省
- ・授業評価アンケートの実施